

大かるたを車いすで踏んで取る参加者＝岐阜市長良福光、岐阜メモリアルセンターふれ愛ドーム



# 「車いすかるた」熱戦

岐阜市で  
大会 障害者と健常者交流

障害者と健常者が車いすに乗って一緒に楽しむ「大かるた取り大会」(岐阜新聞・ぎふチャン後援)が19日、岐阜市長良福光の岐阜メモリアルセンターで行われた。障害者の抱える問題などをテーマにした1対4方の絵札を車いすで踏んで取り合った。

同市のNPO法人「障害者自立センター つかいぼう」が、障害の有無にかかわらず交流を深めようと企画

し、29回目。市内や近郊のサービス利用者やボランティア、名古屋市の交流団体のメンバーら小学生から60代まで110人が参加した。介助者とペアで札を取る部門や、手動車いすのみ、電動車いすも混在の各部門、所属団体別などで競技を行った。

句は公募して毎回一部を差し替えており、取り札は段ボールなどに絵を描いて手作りした。この日は「自販機のジュース 飲みたいのに 手が届かず違うのを飲む 車いすの僕」「『ありがとう』言われて広がる 笑顔の輪」といった句が読

み上げられ、参加者は目当ての札へダッシュし、一番乗りして歓声を上げる人もいた。大会を担当した同法

人の後藤篤謙副理事長

(48)は「イベントをきつかけに、障害者と健常者が日頃から当たり前のように交流できる関係が築けたら」と願った。(小森直人)